TS騎士
ふたなり化
搾精

行方不明者続出の
原因調査を命じられ
部下を率い西の山へ
赴いた聖騎士隊長
フォルティス。

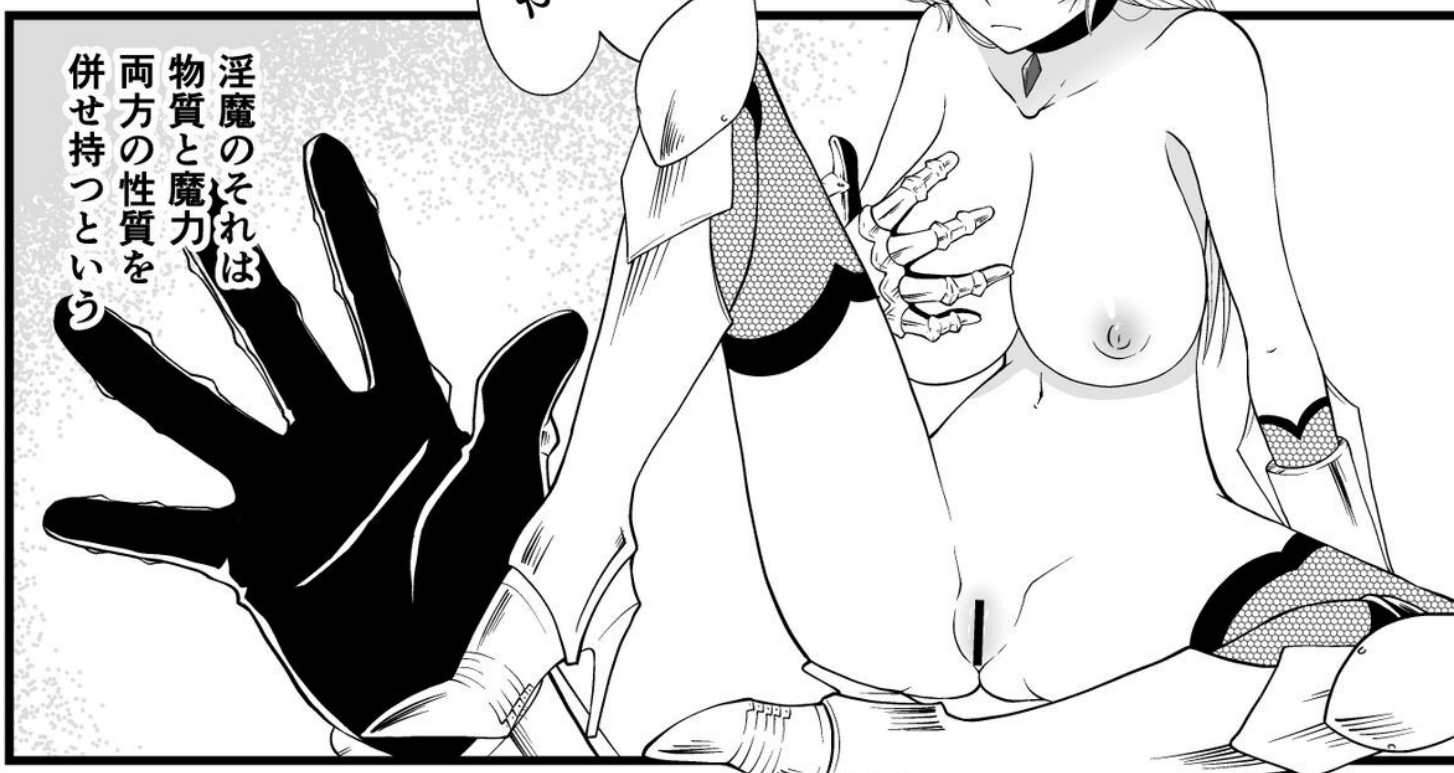
しかしそこは
淫魔どもの巣
となっていた。

彼女らの目的は
捕食と繁殖だと言う。
力無き者は糧に、
資質ある者は
精を注いで同族へと
作り変える。

部下を殺され自身も
女へと変えられた
フォルティスは
淫魔どもから凌辱の
限りを尽くされる。

快楽と屈辱に
虐げられながらも、
彼の敬虔なる心
は決して折れる
ことはなかった。

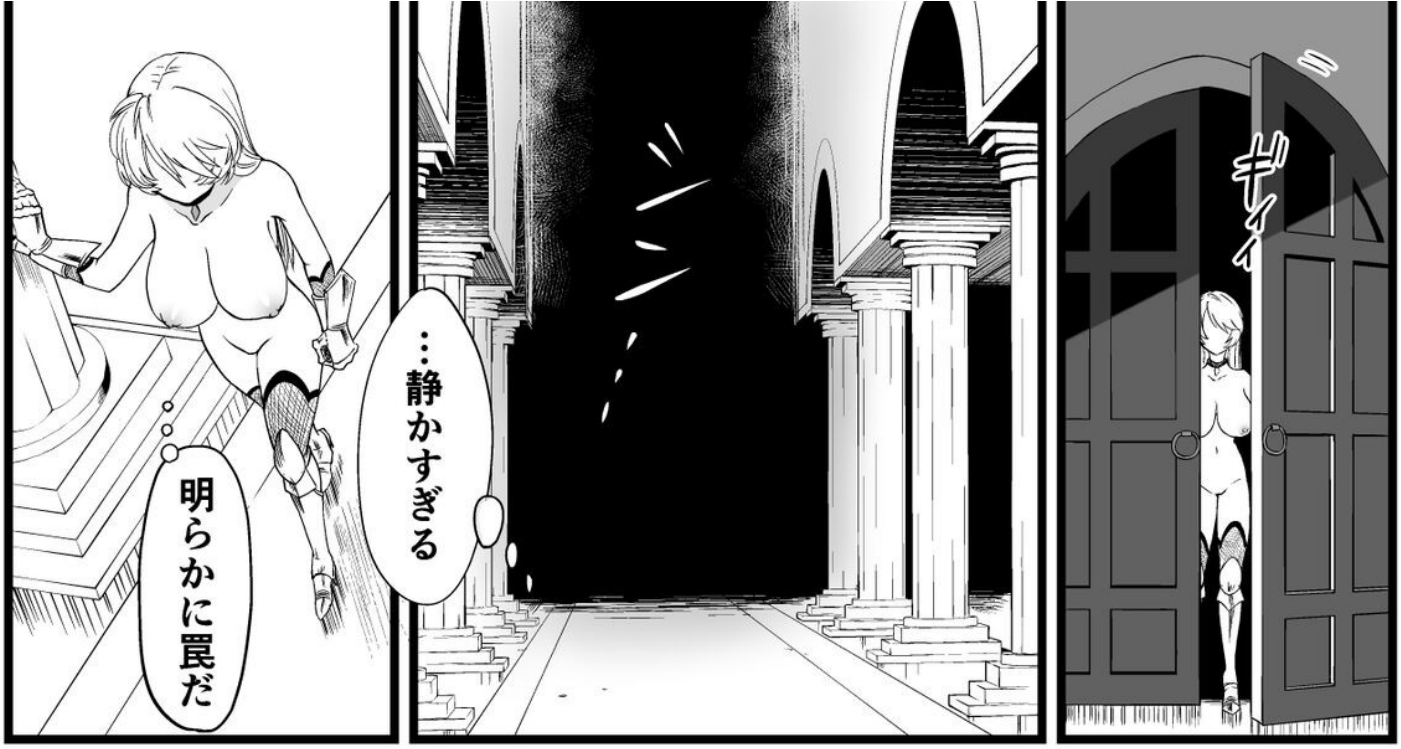
体液が
消えている
…いや

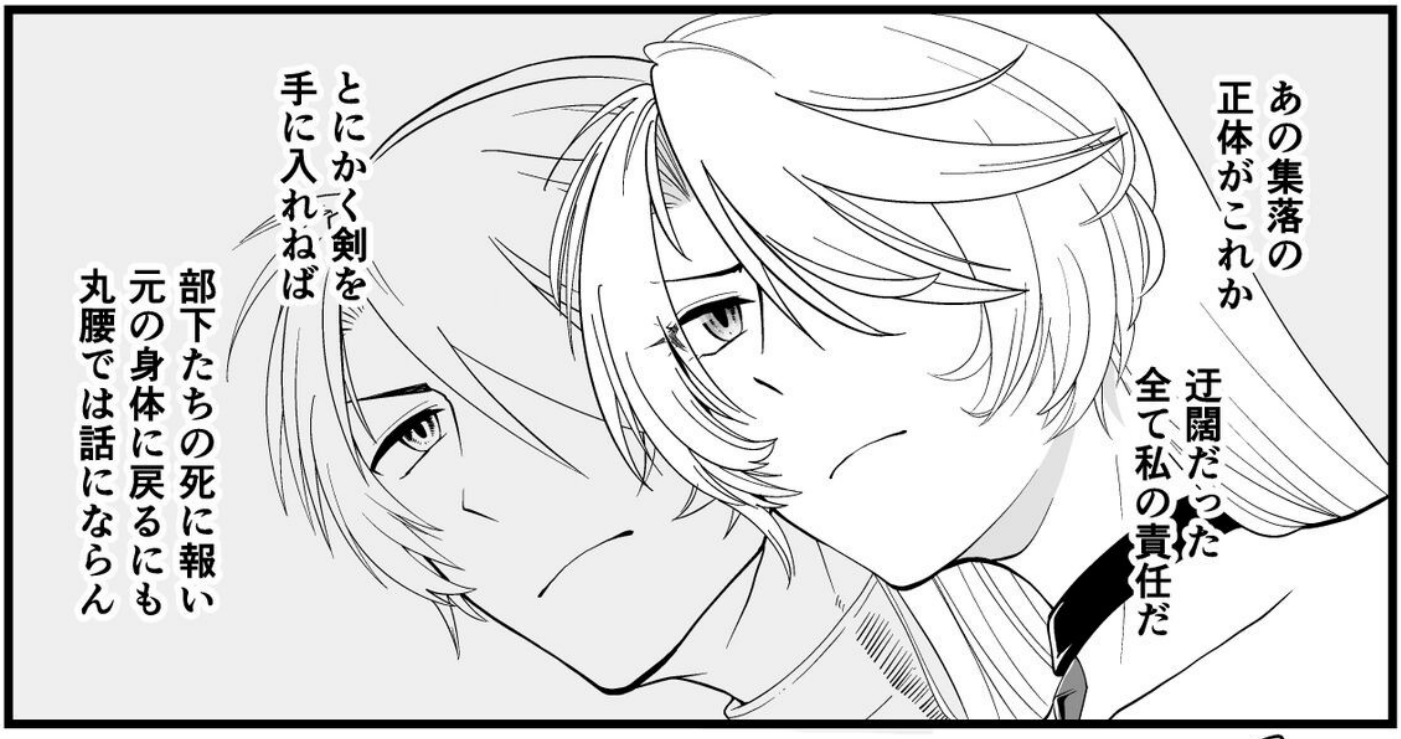

淫魔のそれは
物質と魔力
両方の性質を
併せ持つという

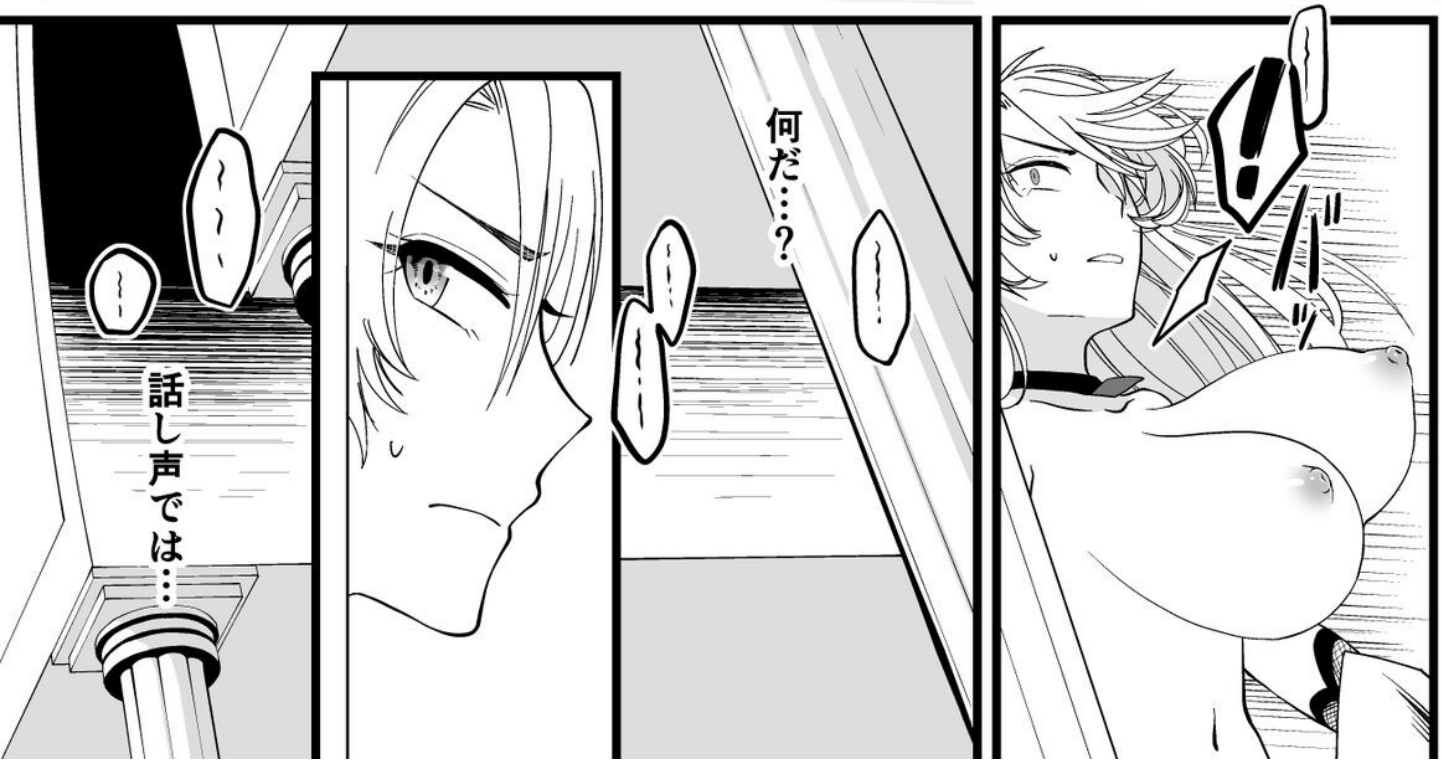
綺麗になった
のではなく…
むしろ汚れが
より深くまで
早く清めねば
奴らの
言う通り……

これは…！
ア…

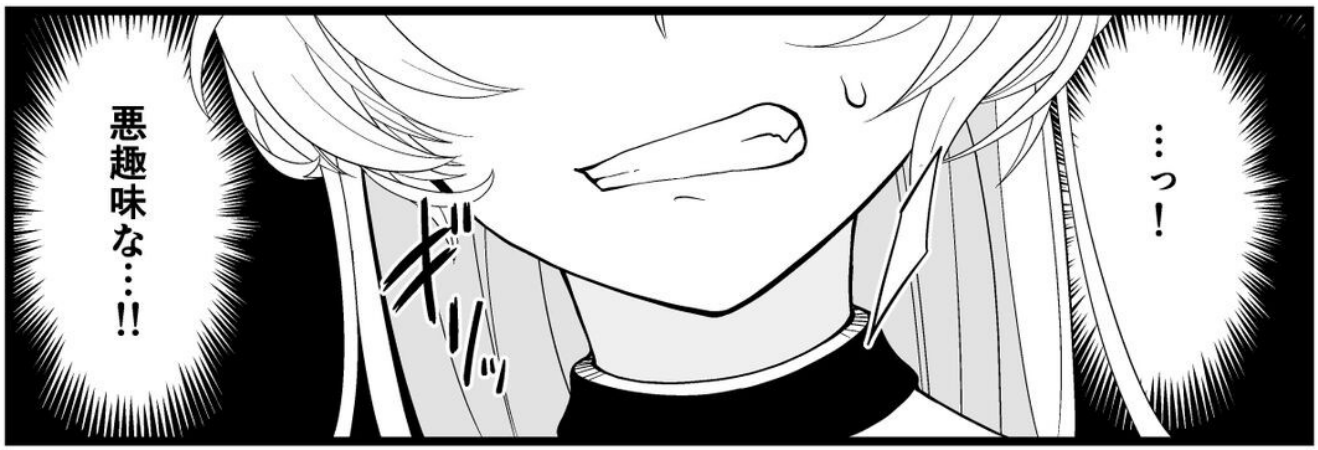
今は考えるより
動くのが先だ
何とか
外へ…


ギィ
…静かすぎる
明らかに罠だ

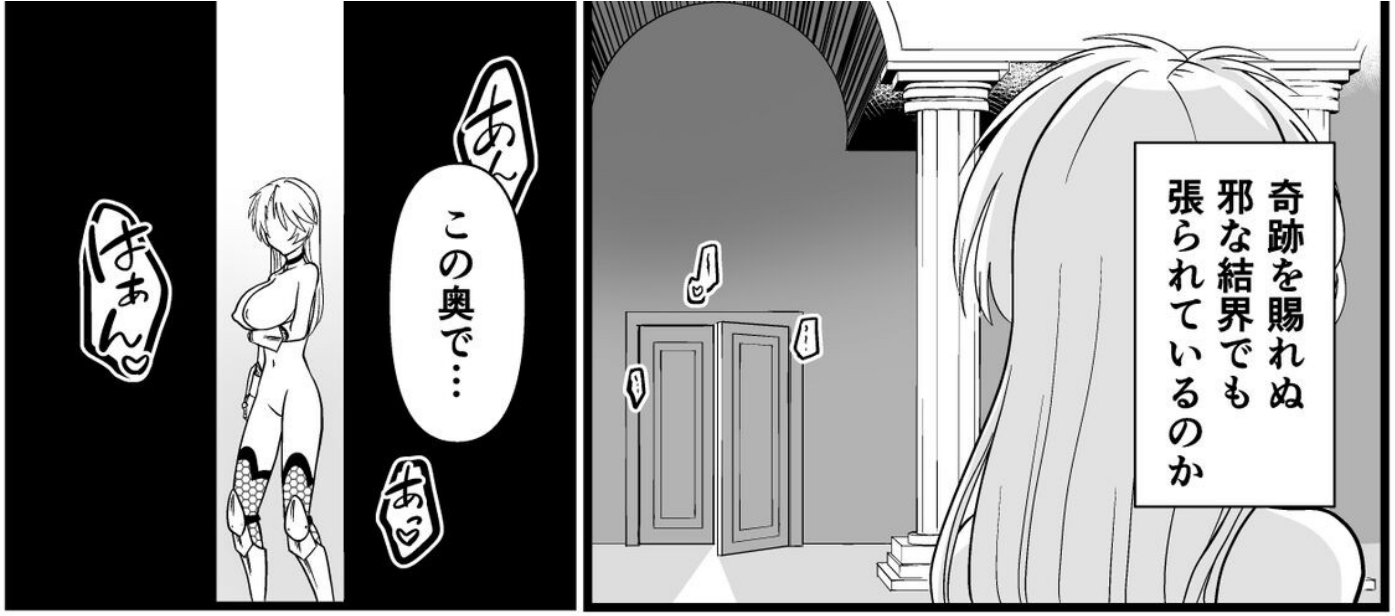

あの集落の
正体がこれか
迂闊だった
全て私の責任だ
とにかく剣を
手に入れねば
部下たちの死に報い
元の身体に戻るにも
丸腰では話にならん

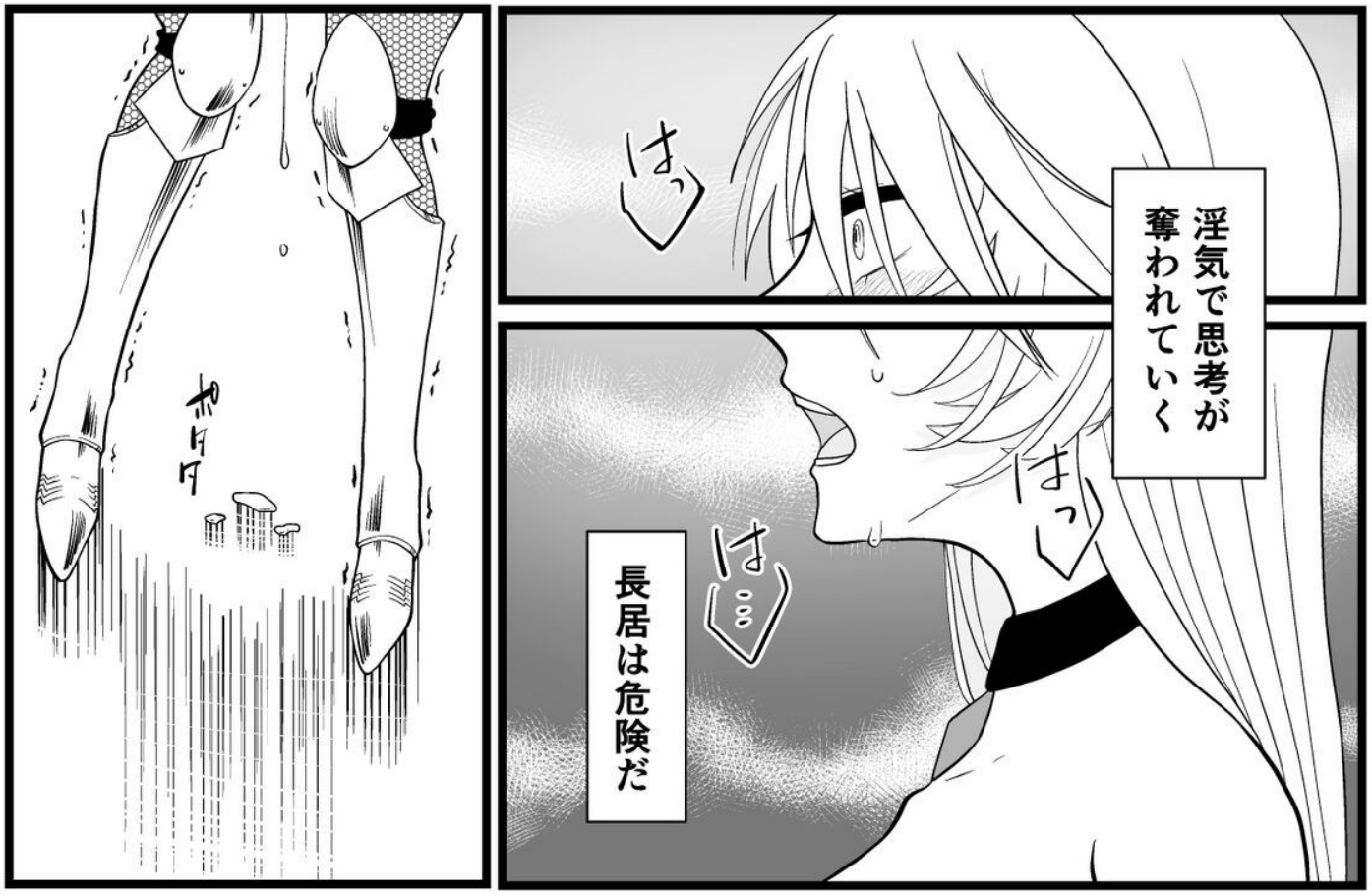

!!
何だ…?
話し声では…

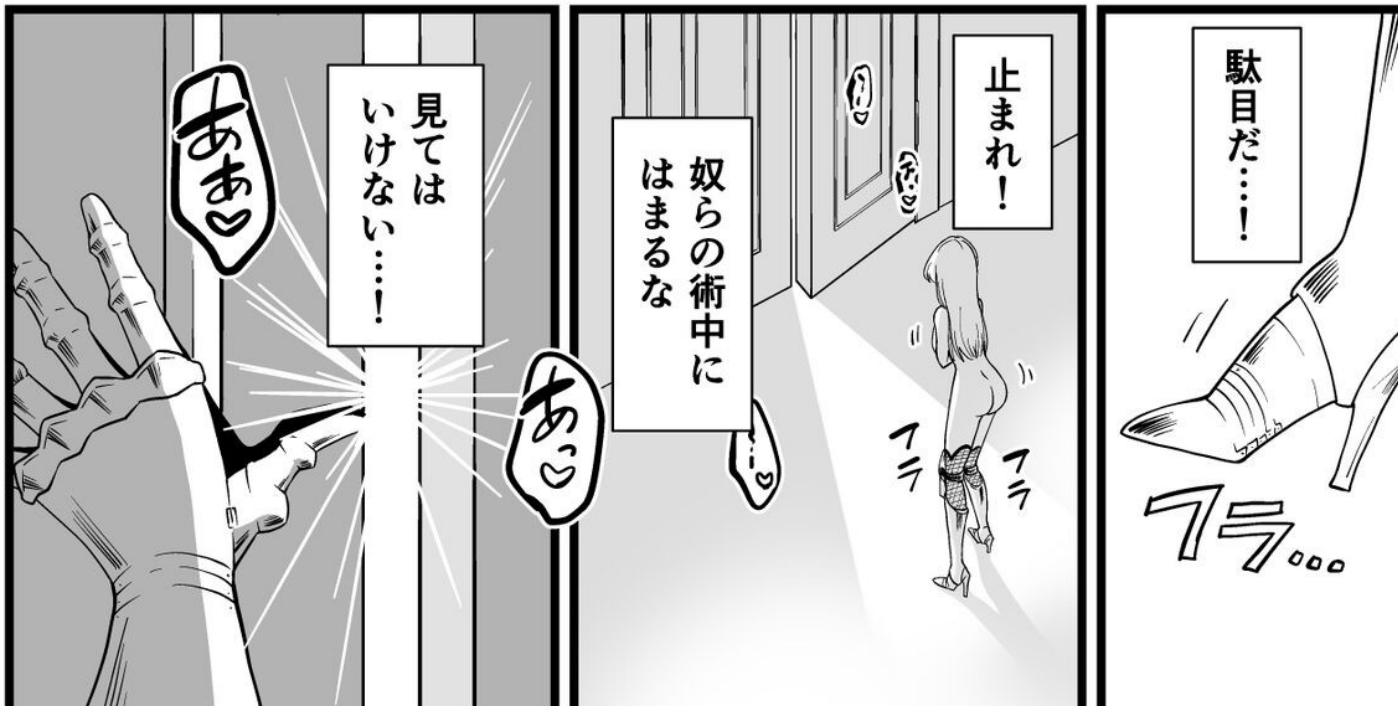
あっ♡
あん♡
あぁ…♡
んっ♡
あん♡


…っ！
悪趣味な…!!

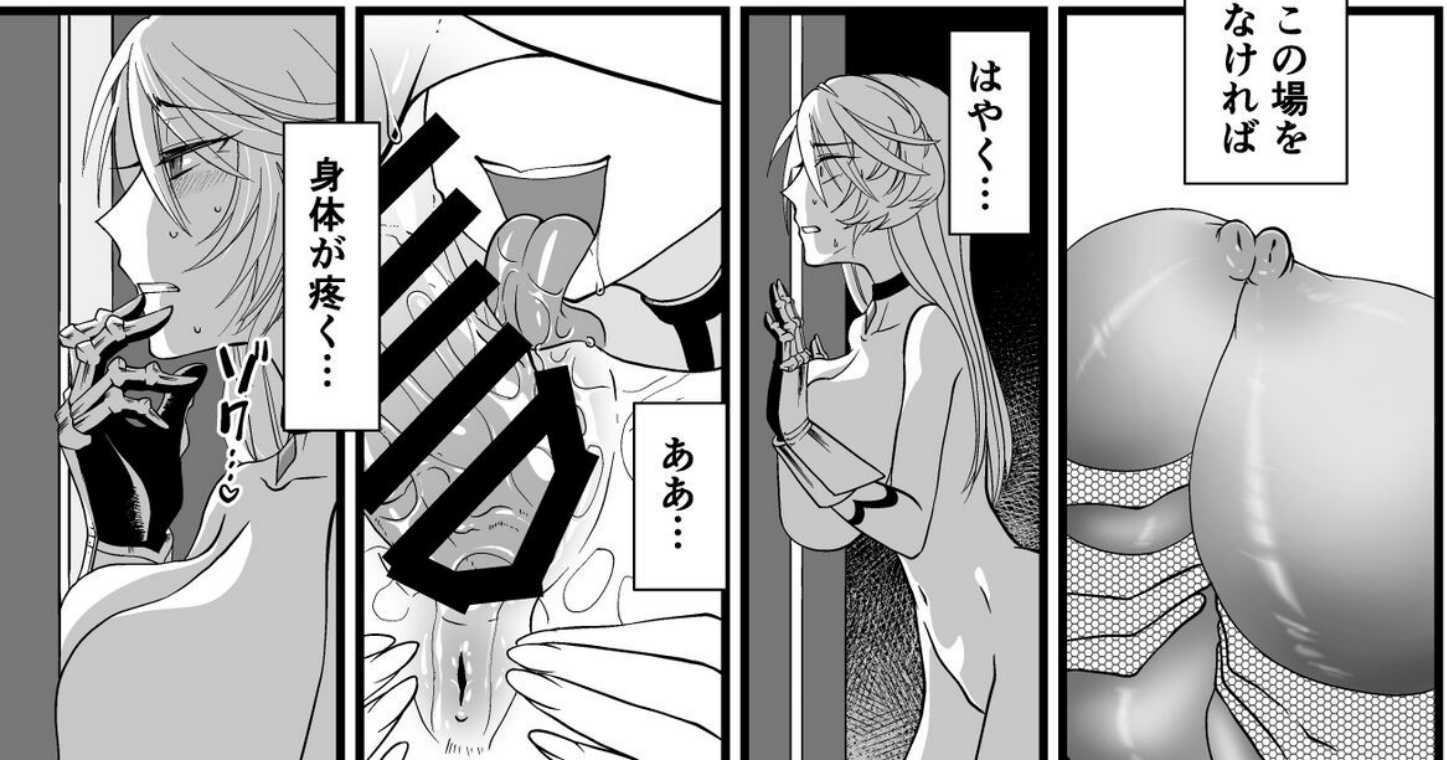
くそっ
思い出すな
奴らめ
これが狙いか
どこまでも
愚弄する…
だが所詮は
肉の苛みだ
我が信仰は
いかなる試練をも
耐え凌ぐ
だが…
神よ…
おかしい
一向に御加護が
下される気配がない
この哀れな
しもべの前に
奇跡を顕し…
ずっと祈って
いるのに
我が声を
聞きたまえ
ほっ
んっ…
ヒクッ
ヒクッ
トロ…♡


奇跡を賜れぬ
邪な結界でも
張られているのか
この奥で…
あ
あっ♡
ぼぁん♡


淫気で思考が
奪われていく
はっ
はっ
はっ
長居は危険だ

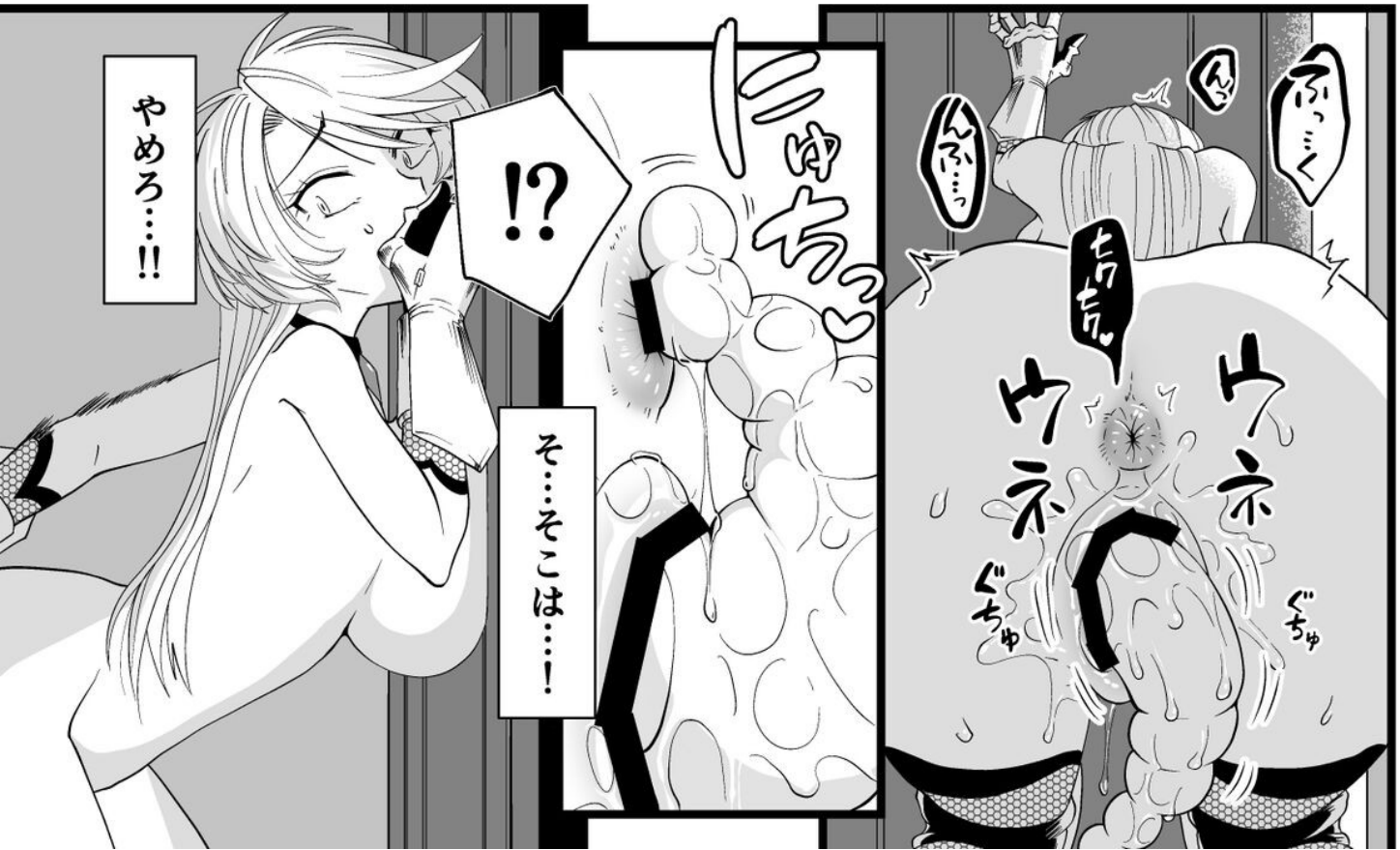

駄目だ…！
フラ…
止まれ！
奴らの術中に
はまるな
フラ
フラ
あっ♡
見ては
いけない…！
あぁ♡

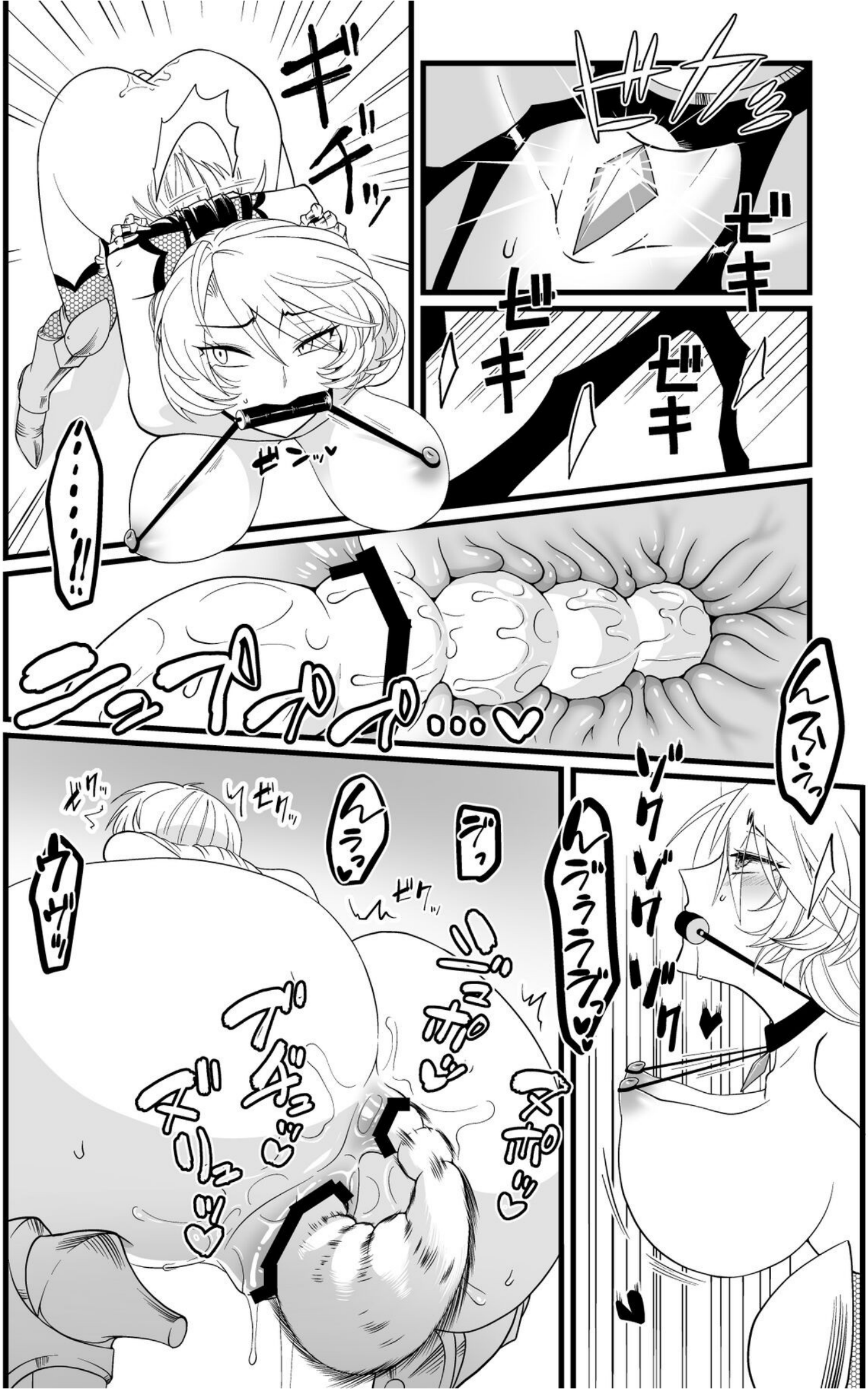
ギシッ
イ…
あん
ギッ
ギシ
はあ
ギシッ
ギシッ
あっ…んっ


早くこの場を
離れなければ
はやく…
ああ…
身体が疼く…
ツク…

飢えている
私の身体が…
……!!
ガシッ
はなしっ
ビキ
ビキ
ビキ
ビキ
ズルン♡
これは…!?

ぐりゅんっ♥
んぐっ
ハクハク
動くな！
ぐりん
ぐりん
ぐりん
声を出せば
奴らに気取られて
しまう！
お姉様ぁ♥
あっ


ふっ…く
んっ
んふ…っ
ちゅ
ぬちゅ
ぬちゅ
ぐちゅ
ぐちゅ
にゅちっ♥
!?
そ…そこは…！
やめろ…!!


ギギッ
ゼンッ
ゼキ
ゼキ
ゼキ
ゼキ
ゼンッ
!!
ゾクゾクゾク
んふぅっ
んぢゅるるるっ!
ゼクッ
ゼクッ
ゼクッ
んぢゅるっ
ぢっ
ゼクッ
ぶぽっ
ぶぽっ
ぶぽっ
ぶぽっ

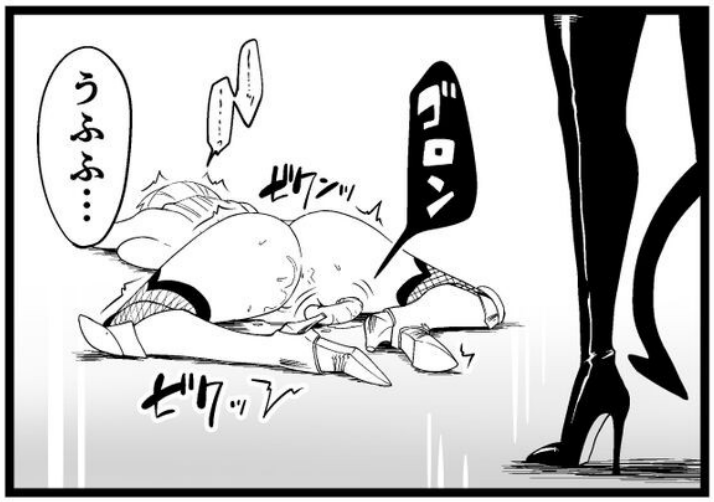
ん…
ふ…んん♥
ぜろ
たゆっ♥
ぶるっ♥
ぜろッ
ぜろッ
ズリュッ
ズリュッ
両側から交互にっ…
ズグッ
ズグッ
刺激で正気が散らされそうになる…！
ぶーーっ
んっ…
ぜろッ
このままでは駄目だ…
とにかく淫気から離れなければ…
ズル…

ズルっ
ずぽっ
ずぽんっ
ずぽっ
ズルっ
ぶっ
ビクッ
ビクッ
んっ…♡
まずい
ボヂュッ
ボヂュッ
ビクッ
ビクッ
んう♡
ビクッ
ビクッ
ビクッ
また
『あの感覚』が…
う…♡
耐えろ！
耐え…
ふうう♡
イっ……♡

ピク
しゅるるる…
……？
あら…
いやですわ騎士様
ご自身で慰めるなんて
水臭い…♡

く…
なにを…
何をした…！
騎士様がお休みの間
魔道具を膣内に
忍ばせておいたのです
使用者の性感に
合わせて形や
動きを変えて
くれますの
きっと気に入って
くださる
と思って♡
ふ
ざけるっ
バチーン
な
あ
じゅっぽ♡
じゅっぽ♡
じゅっぽ♡
ビチャ
ビチャ

にゅる…
ん…っ
きゅうっ♥


うふふ…
ゴロン
ゼクンッ
ゼクッ

その精神力は
素晴らしいですが…
お身体はもうじき
我々のものと
なってしまいますのよ
くちっ
ん…
く…っ
あり得ない…っ
クチュ
ぬちっ
は……
どうかしら♡
こんなに精が馴染んで
おりますのに

人が魔族と
なるのは
心が堕ちた
ときだ
どれほど汚辱に
まみれようが
この魂は神のみに跪く
ふーっ
ふーっ
貴様らの思い通りには
決してならない…

素敵ですわ…
その気高き
信仰こそ
魔の素質
敬虔なる者ほど
我々の同族に
相応しいのです
ゾク…
証明して
さしあげます♡

ああ…漸く
騎士様に快楽を
差し上げられます
お独りで飢えを
忍ばれる姿を
見ているだけで
私も心苦しかった
ですわ

はっ
こうして互いの愛液を
混ぜ合わせるように
陰部を絡ませるのも
悦いでしょう？
女の身同士でも
乱し乱されるこ
ことは可能ですわ
ひっ
あ
あ
あ
あああ…♡

ゾクン
んあぁっ♡
ちゅぽんっ♡
うふふ♡
騎士様は本当に
乳首を舐られるのが
お好きなのですね♡

あん♡
騎士様の快楽が
伝わって
きますわ♡
ヒクヒクと
嬉しそうに
なさって…♡
あっ
クプン
クプン
はぁ
スチュ
スチュ
スチュ

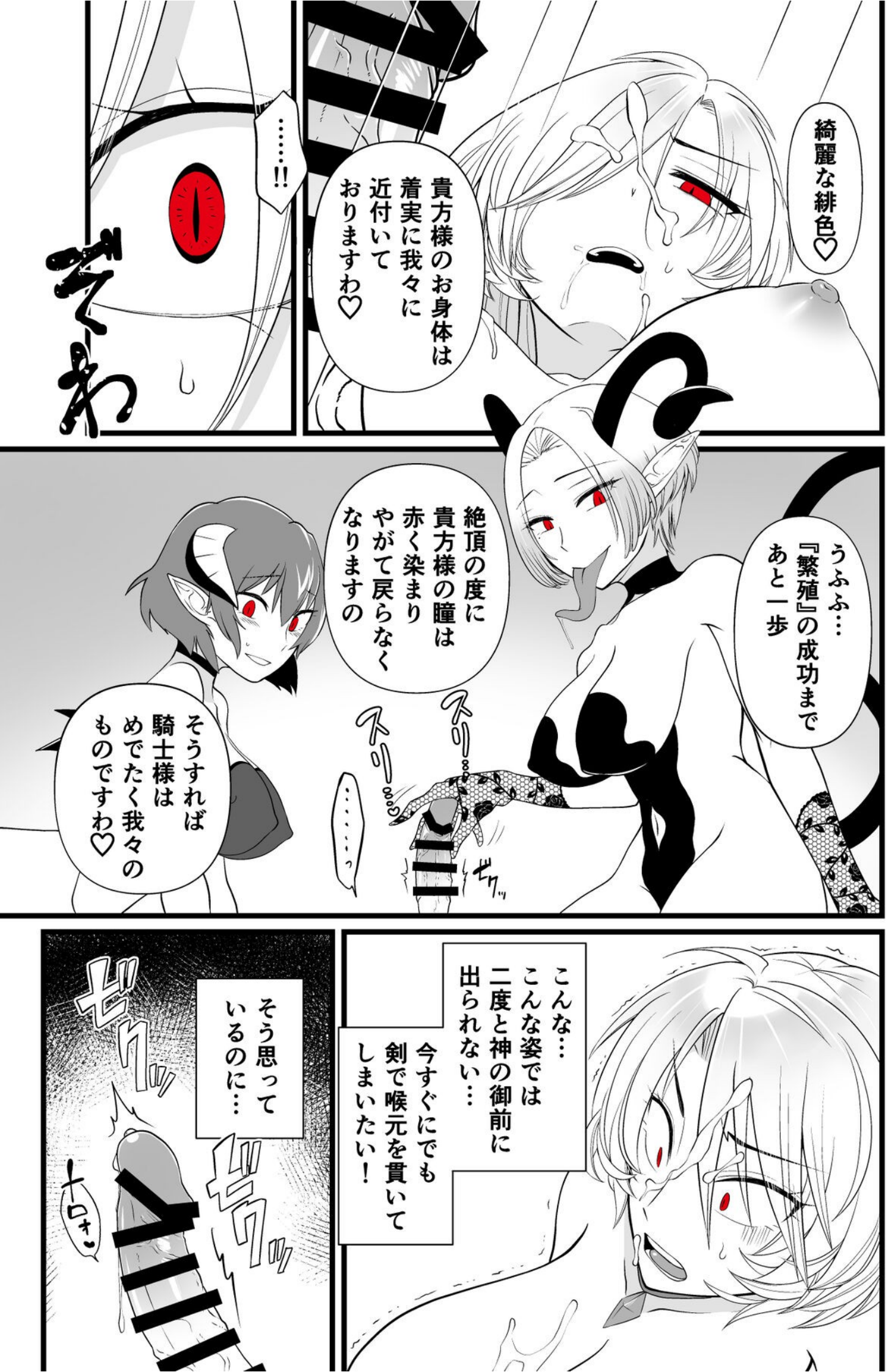
わたくしっ
グチュ
クニュ
クニュ
ラメっ
もう…♡

おっ♡
んおっ♡
プシッ
プシッ
ズリュ
ズリュ
あぁん♡
あぁん♡
ビチャ
ビチャ

ああ…
来る…
来る…っ

ああっ
ルリの潮は『効く』でしょう？
ア…！
あはぁ♡
騎士様ぁ♡
プシッ
プシッ

おぉぉぉ
まあ♡
素晴らしいですわ♡
何と美しい
のでしょう♡
あ…
な……
それに…
ご覧ください
騎士様♡


綺麗な緋色♡
貴方様のお身体は着実に我々に近付いておりますわ♡
……!!
うふふ…『繁殖』の成功まであと一歩
絶頂の度に貴方様の瞳は赤く染まりやがて戻らなくなりますの
そうすれば騎士様はめでたく我々のものですわ♡
こんな…こんな姿では二度と神の御前に出られない…
今すぐにでも剣で喉元を貫いてしまいたい！
そう思っているのに…

ひっ
もちろん『こちら』もいただきますわ♡
心ゆくまでお出しくださいませ♡
あ…
ヌル
ヌチャ
くっ
あっ
ぽっ
ぽっぽっぽっ
ああっ
ううっ…
うっ
じゅるっ
っ…
ぜクッ
ぴちゃっ
ぐぷっ
じゅぽっ
いかがですか？久しぶりの陰茎の感覚は

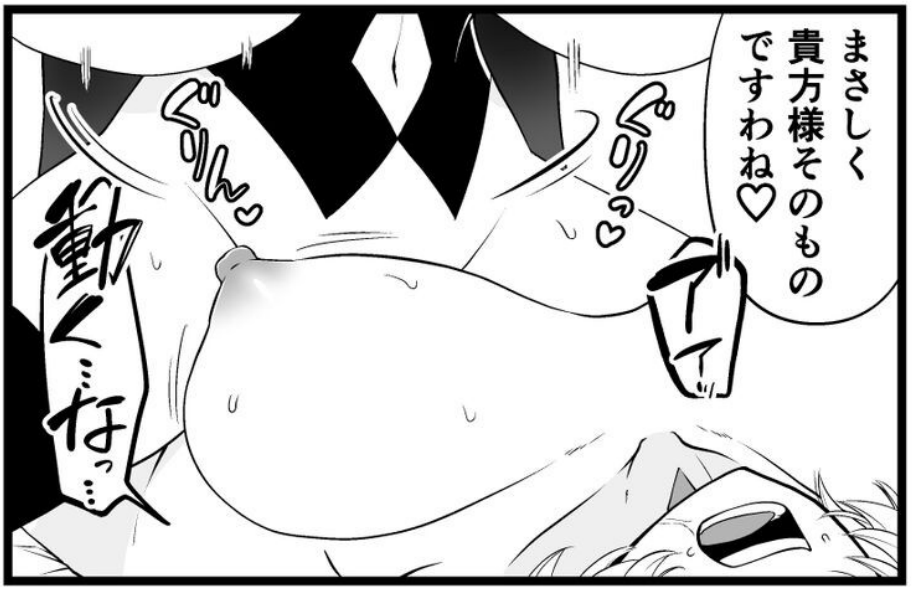
聖騎士様ですから…
女体をご存知ないか
そうでなくとも
教会の『手順』通りの
つまらない性交のみ
だったのでしょう
あら…あまり
嬉しくなさそう
ですわね
くっ…
ふ…
ふ…っ
ふ…っ
可哀想な騎士様…
我を忘れる快楽こそ
至上の喜びですのに
あっ
ああっ
ひっ
やめ…

まあ♡膣を刺激された途端に反応が良くなりましたわ♡
ちゅっ…
んう…♡
ゾクッ♡
ゾクッ♡
騎士様…そのようなお顔をなさらないでください
あれほど取り返したがっておられた『もの』ではございませんか
違う…こんな…穢らわしい身体…ッ
ちゅぱ♡
あぁ…んっ
ぴちゃっ
じゅるるっ
ちゅっ♡
ああっ
ちゅぱっ
ちゅるるっ
ちゅっ
ええ♡神のものなどとはとても言えませんわね
ですから我々と共にいらっしゃればよろしいのですよ♡
黙れッ
私はっ…
ぐちゅっ
にゅちっ
にゅちっ
ぐちっ♡
わたし…
お…ああああっ

ガク
ガク
チュ
チュ
ヒルル
ヒルル
ダロォ
ん…♡
この…
瑞々しい味♡
やはり女体を
知ってはいるものの
経験は浅いようですわ
ぬちっ
くちゅ…♡
くちっ
私たちのために
こんなに
たくさん…
ありがとう
ございます♡

さあ騎士様
ふーっ
ふーっ♥
お待ちかねですわ…♡
ぐぱっ…♡
な…
くちっ…
んっ…
やめ…
あ…
あぁぁぁぁ
ああ…♡
みっぷぷぷ

あぁん…♡
とても美味ですわ騎士様…♡
みちの
キュンッ♡
細身ながら硬く最奥まで貫く長さ
キニッ♡


まさしく貴方様そのものですわね♡
ぐりっ♡
ぐりん♡
動くなっ…

何だこの感触は…
搾るように絡んで…！

いかがですか？
私の中の心地は
んっ
お気に召したら
嬉しいのです
けれど…♡
あんっ
んふ…
物足りなさげ
ですわね
グシュ
グシュ
騎士様が欲して
おられるのは
どちらかしら♡
グチュ
グチュ
トロォ♡
なんて…
分かって
おりますわ

もちろんこちらですわよね…っ♡
ぐぐっ!
あぁん♡ やはり悦いですわぁ♡
ぐぐっ
ぐぐっ
私、貴方様の喉がやみつきになってしまいましたの♡
喉奥の切なげな締め付けがたまりませんわぁ♡
ぐぐっ
ぐぐっ
んっ♡
ビクン

うふふ♡騎士様も
嬉しいのですね♡
陰茎がビクビクと…♡
あら♡本当に
強欲なお方♡
そんな淫らなお身体で
今までよくも
澄ましたお顔で
聖騎士を名乗って
おられましたわねえ
ですが
もうご自分を
偽らなくても
良いのですよ
ええ♡
これからは
我々と共に快楽を
貪りましょう
どうぞ私の中へ
存分に精を注いで
くださいませ♡
私も喉奥へ
お出ししますわ♡

ズボッ
がぼっ
ゲボッ
ゴボッ
はあ…♡
騎士様の精…♡
ごほっ
がぼっ
ゾクゾク♡
そのお顔…
またすぐに
催してしまい
そうですわ…♡
もっと虐めて
さしあげたい
けれど
後が待って
おりますから…
ヒュー
ヒュー…

ゼュププッ
……っ
ゼクッ
……っ
ゼクッ
ジュポッ
ジュポッ
んぇっ❤
んぉっ❤
グイ
グイ
うっ
ズッ
ズッ
ほぉん❤
ヂロ…❤
ボタ
ボタ

あっ♡
あっ♡
あんっ♡
ぱちゅっ
ぱちゅっ
ぱちゅっ
ギシッ
ギシッ
ああ♡
騎士様ぁ♡
疲労が限界のようですわね
私が支えてさしあげますから
もう少しの辛抱ですわ
ガクン
ガクン
あぁん
わたし…
私は何をして……？

分からない…

ただ終わることを
望んでいる

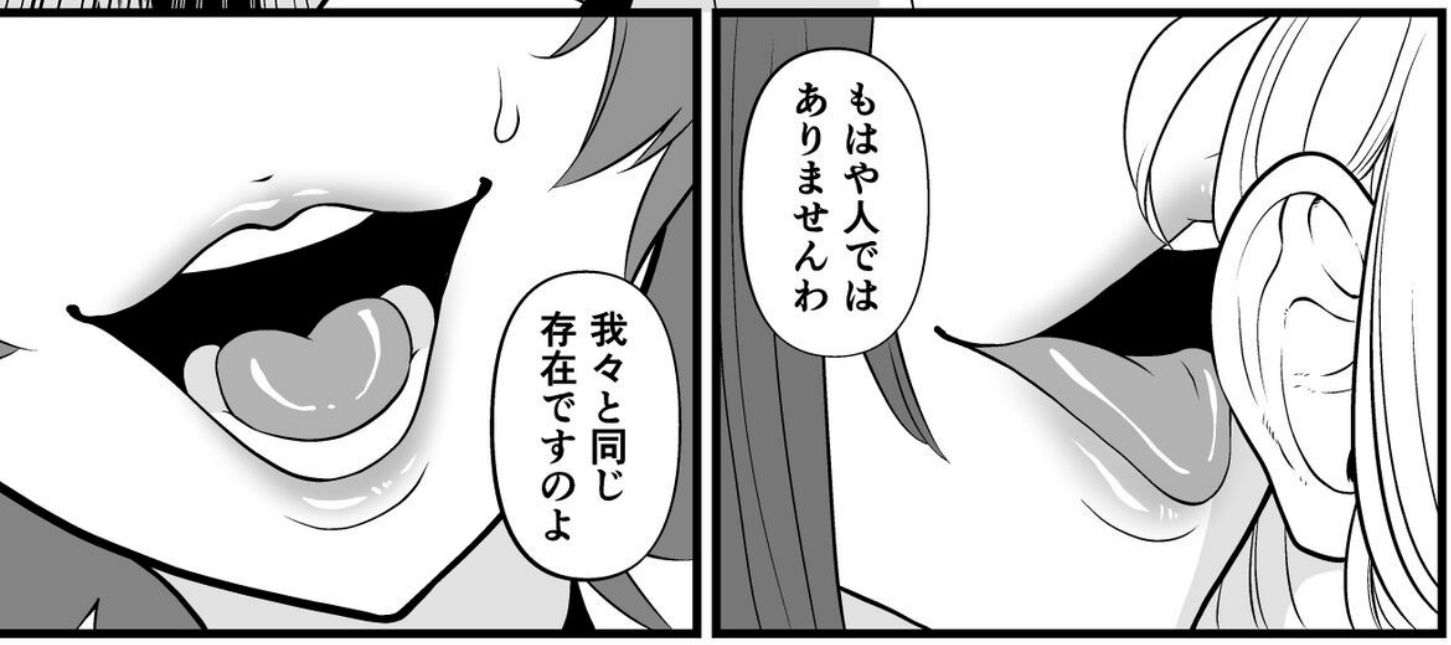
だが…
足りない

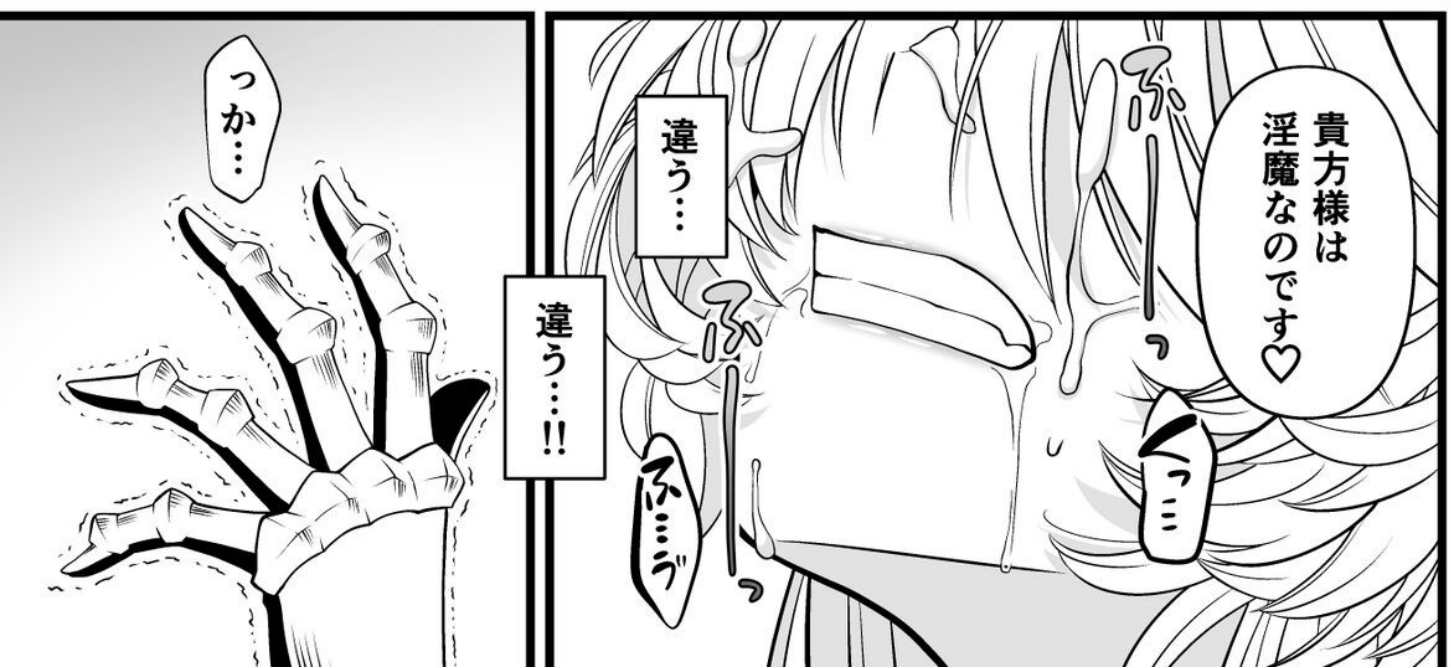
これでは
終われない…

欲しい…！

あひィ!!
貴方様の望みは分かっておりますわ♡
ヌルゥ
ん…っ
切ない思いはさせません
こちらも悦くなってくださいませ♡
あっ
あっ
ご心配なく♡ 射精もちゃあんとできますのよ♡
へあ…♥
ブルッ

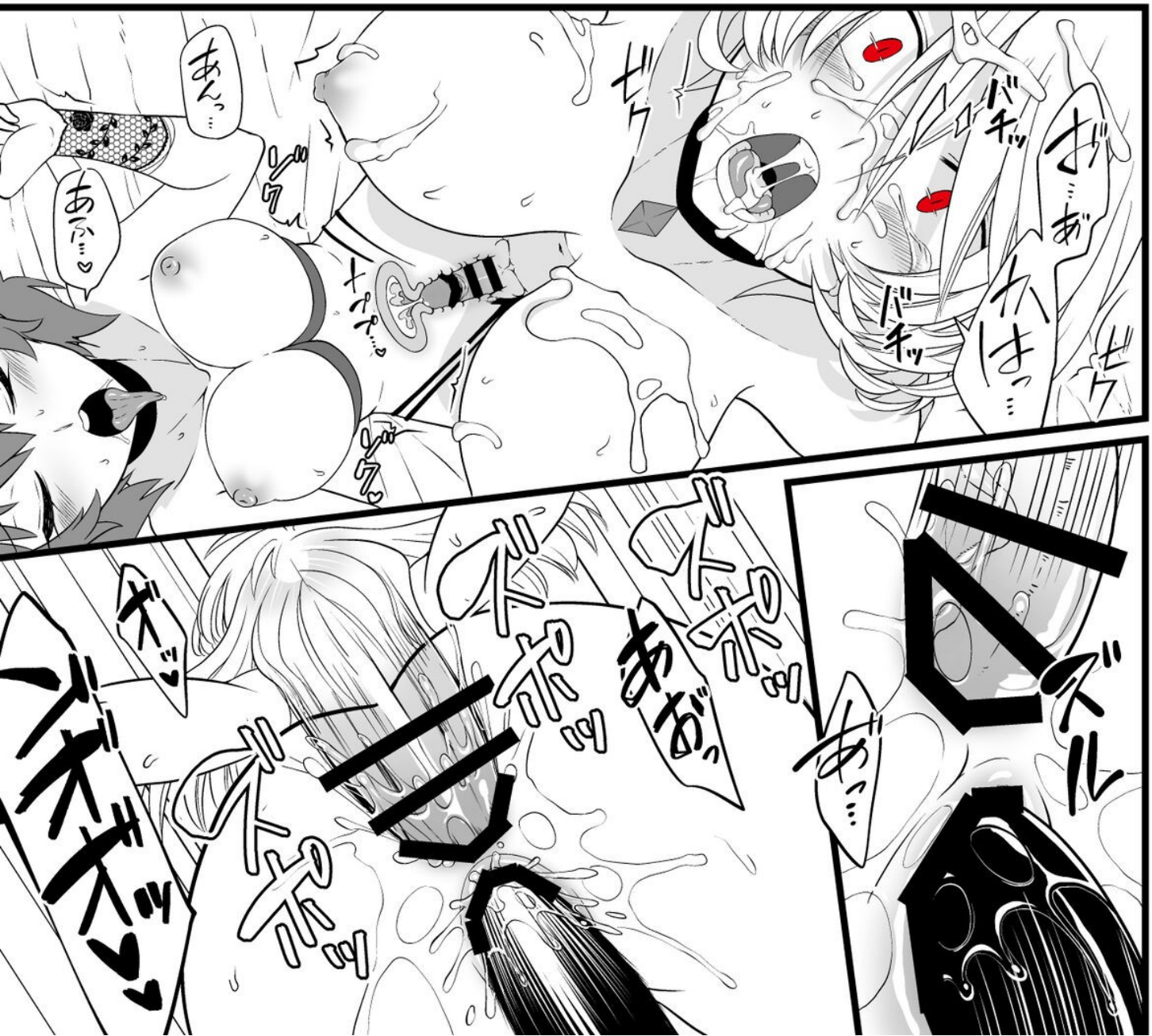
あっ…♡
腰が動き始めましたわ♡
ご自身でも充分実感しておりますでしょう？
おっ♡
ふぃ…っ♡
ジュポッ
ズブッ
ズブッ
ズブッ
ズブッ
ラブっ…

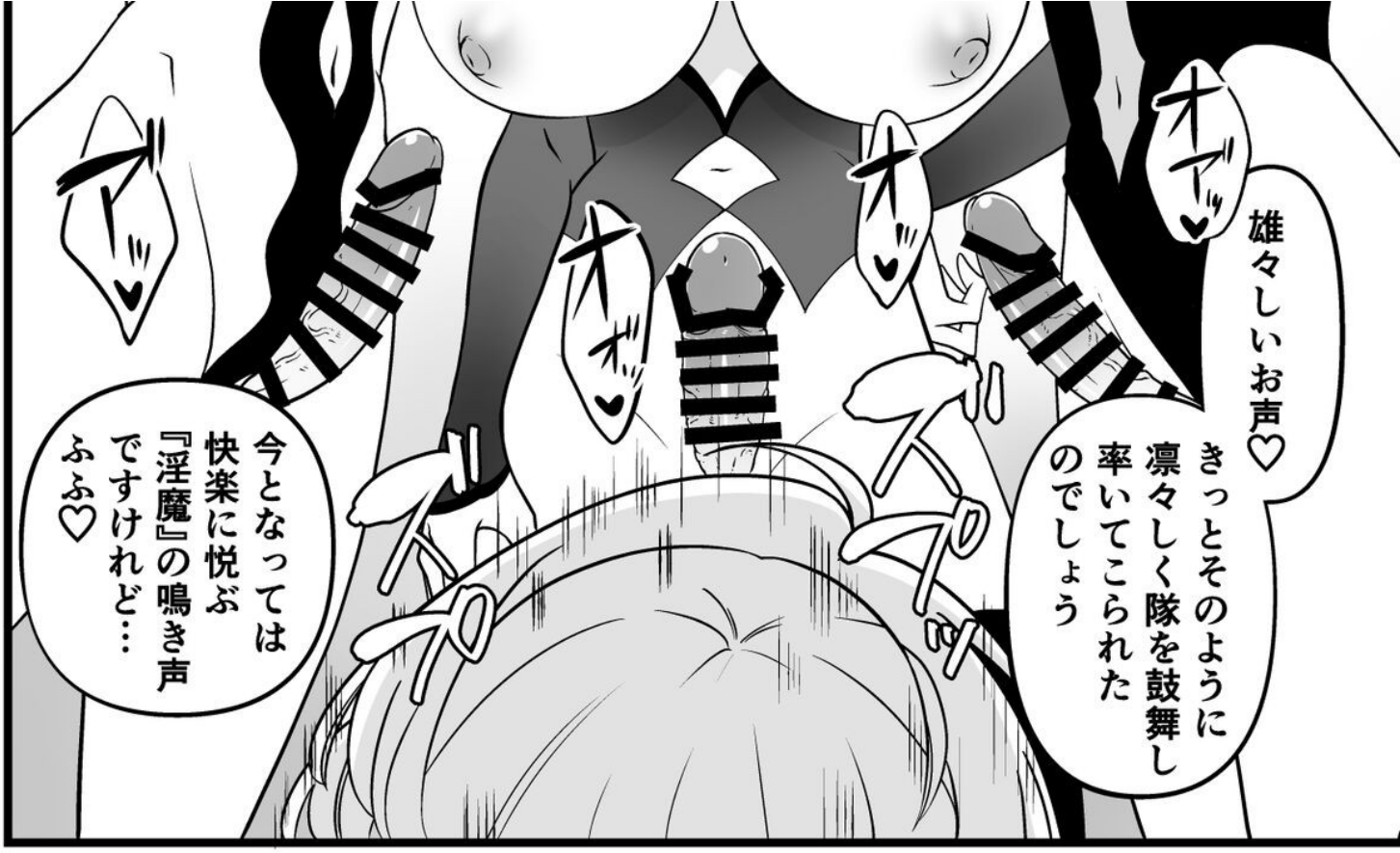

もはや人ではありませんわ
我々と同じ存在ですのよ
雄と雌…どちらの快楽も飽くことなく浅ましく貪る身体

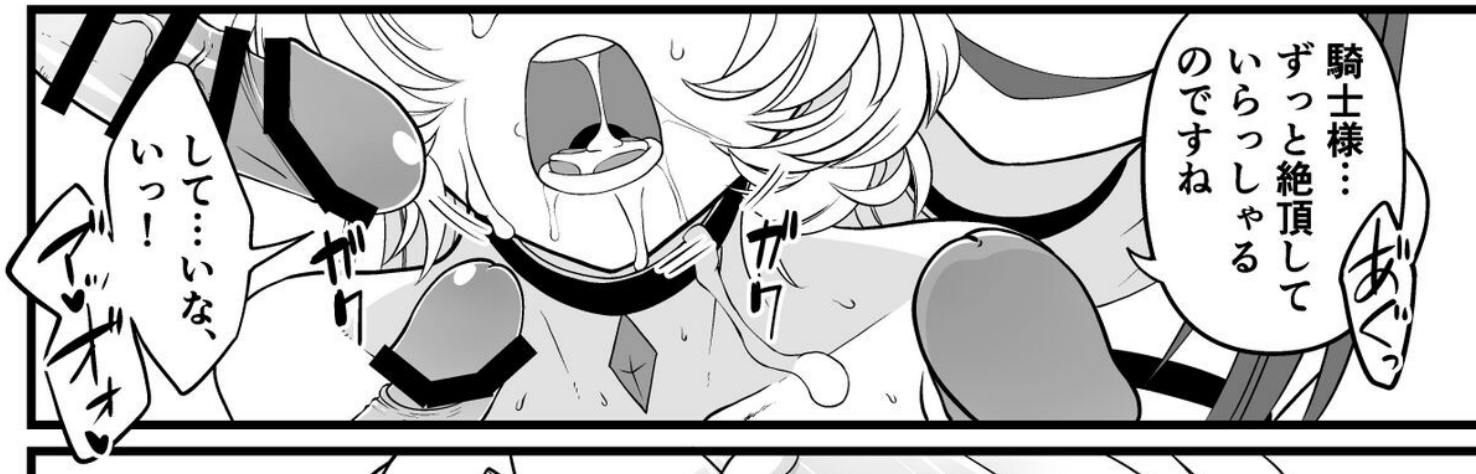

貴方様は淫魔なのです♡
違う…
違う…!!
っか…

…みよ
神よ…
うっ
我が声
っを
あ…っ
聞きたまえ…
はあっ…この、
あ、ち、小さ、き
あ、あっ、し、もべのっ
祈りっ
を……
ガク
ガク
あら騎士様
腰を振りながら
祈りを捧げて
おられますの？
半ば無意識
なのでしょう
健気なほど
敬虔なお方
本当に
愛おしい…
ブッブッ
ブッブッ
あらっ
ズ……
ズグッ
ラッ

神よ…
それっ♡
オオッ!!
ああ♡


あんっ…
あぁ…♡
バチッ
バチッ
ズル
ボボッ
ボボッ
ボボッ
ボボッ
あおっ
あっ…


雄々しいお声♡
きっとそのように凛々しく隊を鼓舞し率いてこられたのでしょう
今となっては快楽に悦ぶ『淫魔』の鳴き声ですけれど…ふふ♡
オッ♡
オッ♡
オッ♡

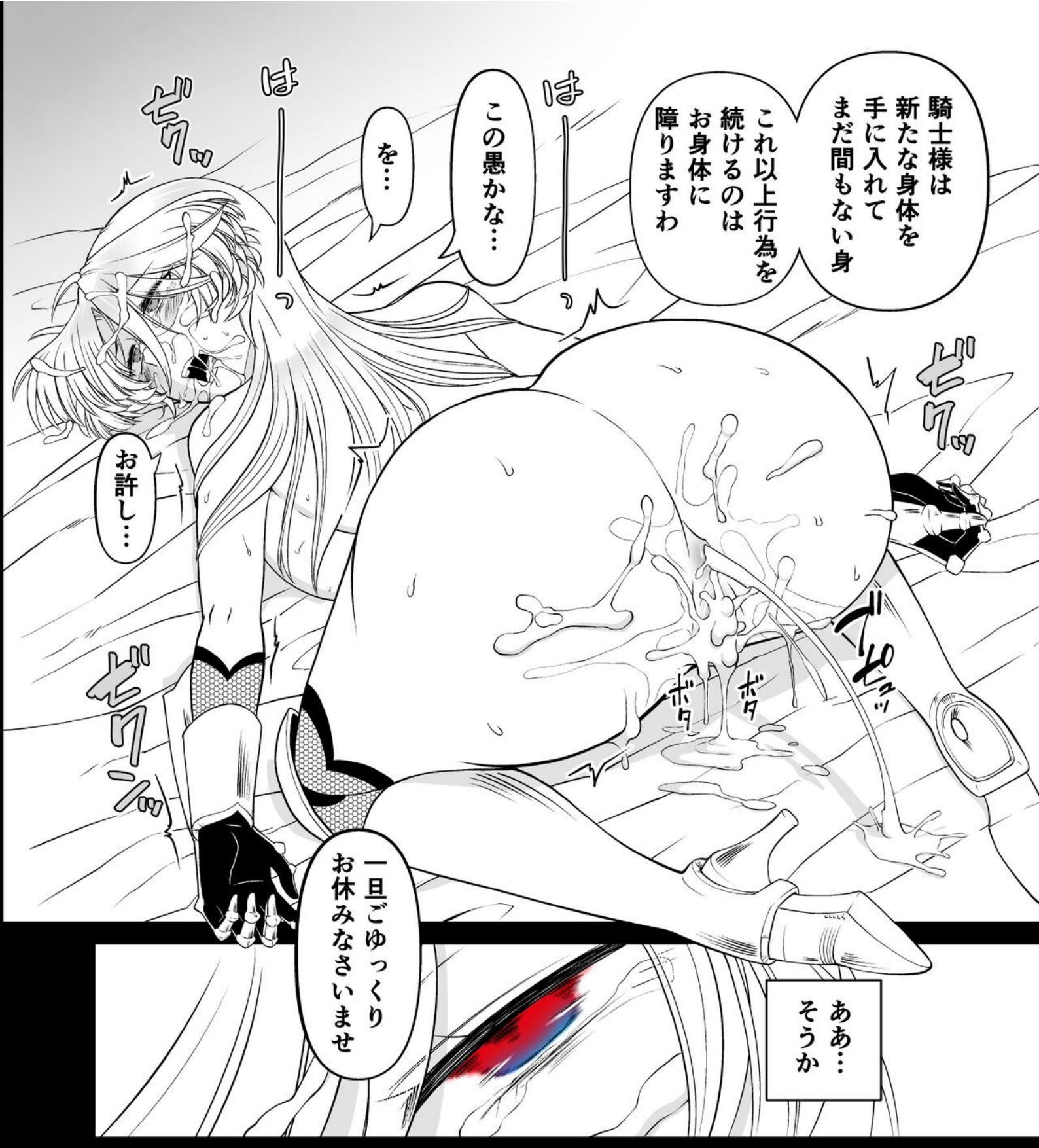

騎士様…ずっと絶頂していらっしゃるのですね
して…いな、いっ！
あぐっ
ガク
ガク

虚勢を張っても無駄ですわ♡
先程から瞳が赤いままですもの♡
ララ…♡
うっ
ビクビク

神よ
これも試練と
おっしゃるのですか
この地獄の果てで
貴方は本当に
待っておられる
のですか
何故
何故…！

神よ！
何故私の声に応えてくださらぬのですか!!

ぬぽんっ
ビュッ
あっ
コポ…
あぁっ♡
あっ
ゼクッ
ゼクッ
あんっ…♡
まあ騎士様♡
罪深いお方
ゼクンッ
神の名を
口にしながら
絶頂なさるなんて
しかも不満を
おっしゃって
おりましたわ
クスクス
ひゅ――っ…
ひゅ――っ
…！
淫魔による
冒涜行為としては
素晴らしいもの
ですわね
私は…
何という
ことを……
ズル…


騎士様は
新たな身体を
手に入れて
まだ間もない身
これ以上行為を
続けるのは
お身体に
障りますわ
この愚かな…
を…
お許し…
ああ…
そうか
一旦ごゆっくり
お休みなさいませ

ようやく
眠れるのか

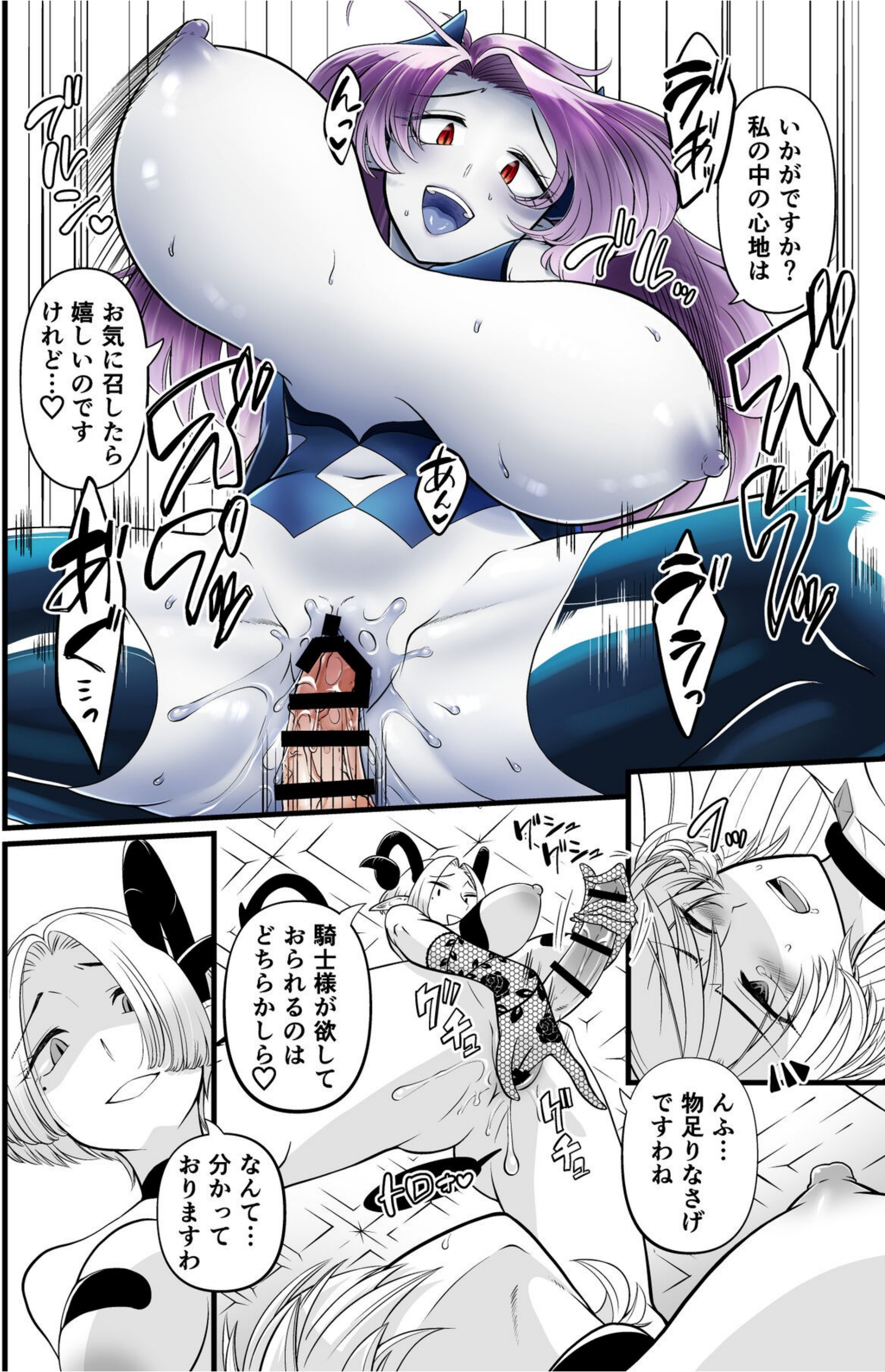
続

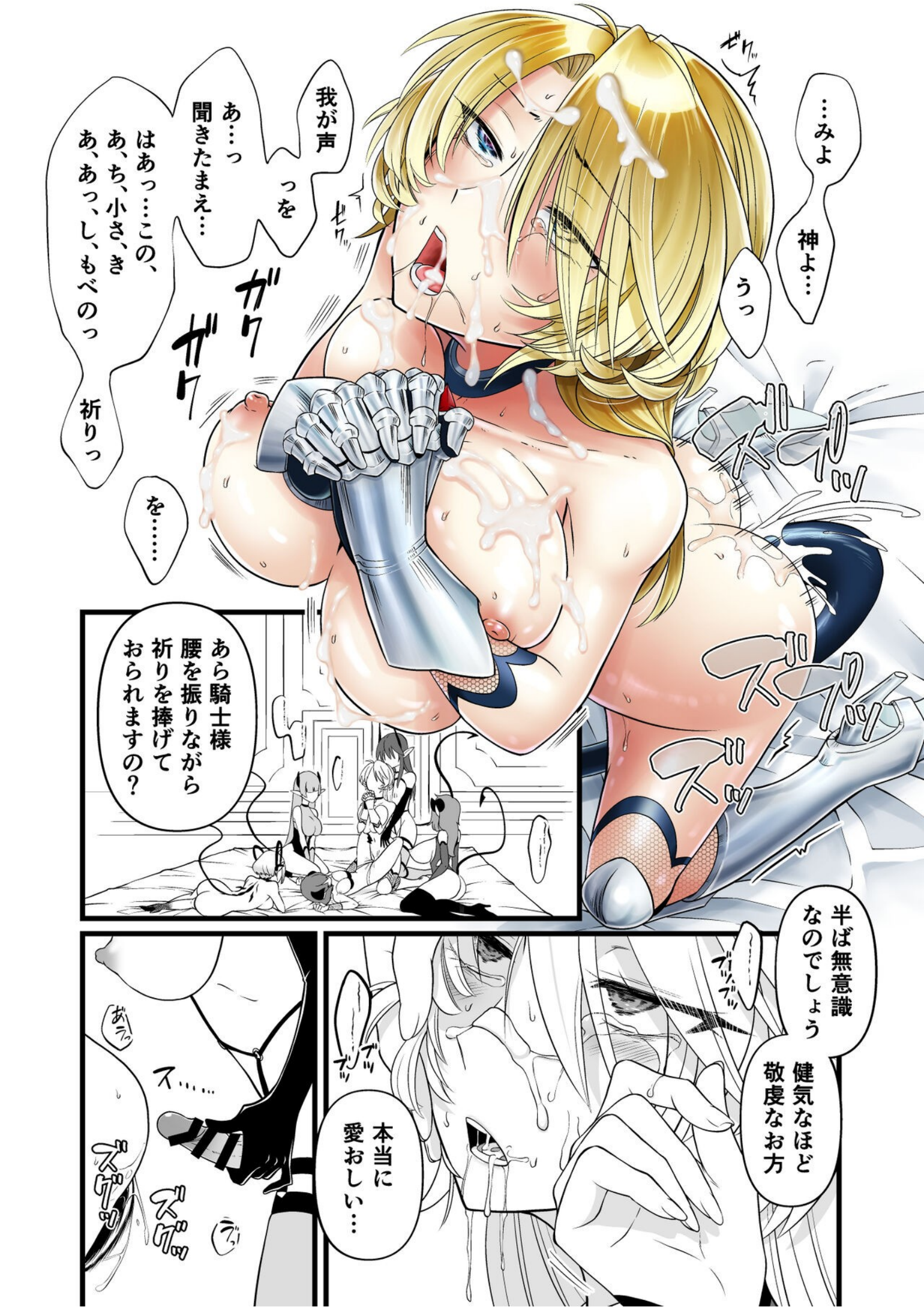
くそっ
思い出すな
奴らめ
これが狙いか
どこまでも
愚弄する…
だが所詮は
肉の苛みだ
我が信仰は
いかなる試練をも
耐え凌ぐ
だが…
神よ…
おかしい
ずっと祈って
いるのに
我が声を
聞きたまえ
んっ…
この哀れな
しもべの前に
奇跡を顕し…
一向に御加護が
下される気配がない

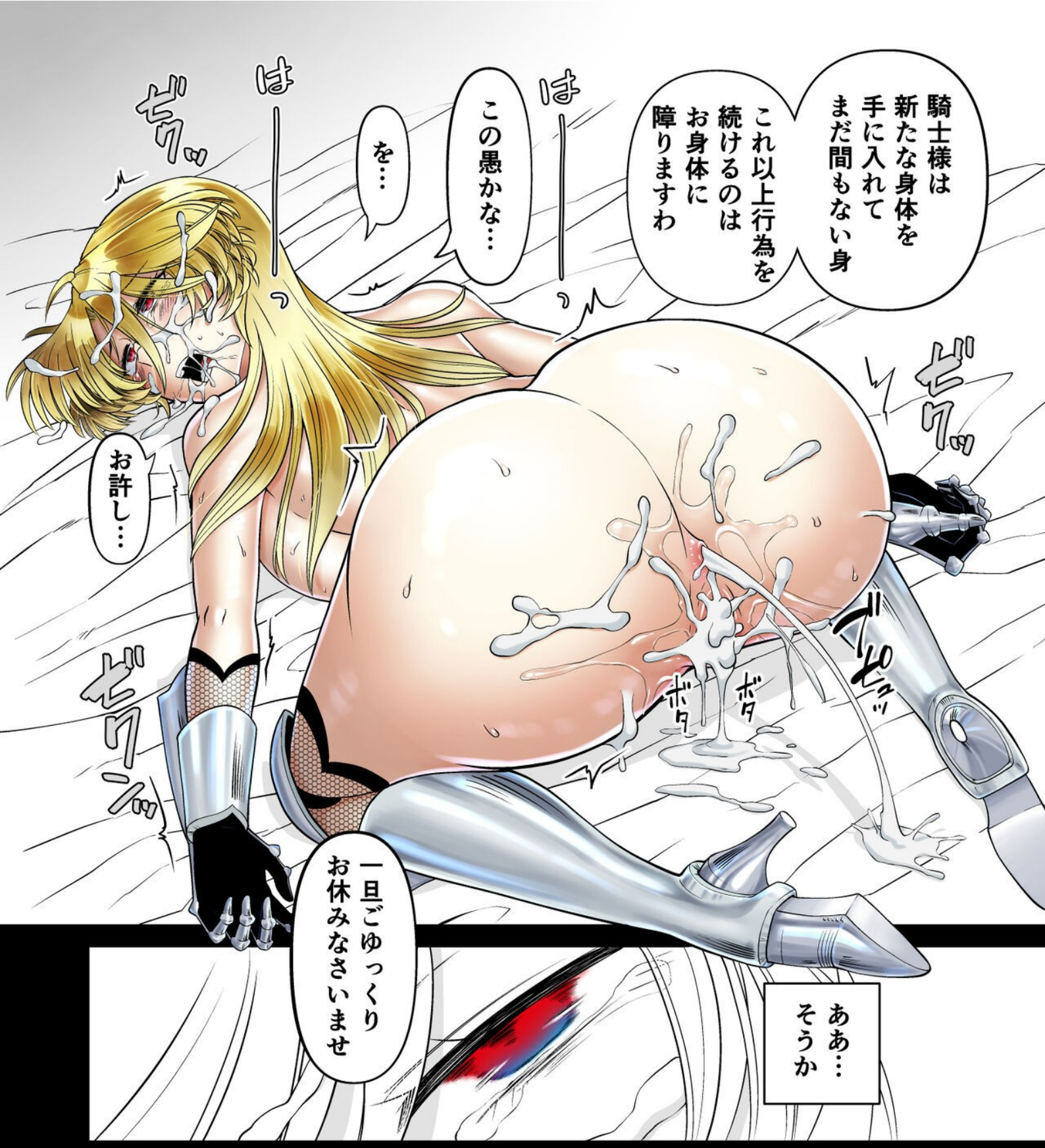
ん…
くふ…んん♥
ぜク…
ぶるんっ♥
ぜクッ
ぜクッ
ズリュッ
ズリュッ
両側から交互にっ…
刺激で正気が散らされそうになる…！
ズグッ
ズグッ
このままでは駄目だ…
ぶーーっ
んっ…
ぜクッ
ぶーーっ
とにかく淫気から離れなければ…
ズル…

んっ
ハラッ
ぐちゅっ
ぬちゅっ
クニュ
クニュ
んっ…
ああ…漸く
騎士様に快楽を
差し上げられます
うっ…
ぬとっ
ぬとっ
ぬちっ
うくっ
お独りで飢えを
忍ばれる姿を
見ているだけで
私も心苦しかった
ですわ
ふぅ
あん

ニュル
ひっ
もちろん『こちら』もいただきますわ♡
心ゆくまでお出しくださいませ♡
あ…
くっ
ヌル
ヌル
ヌル
あっ
ああっ
はぷっ♡
くぽっ♡
くぷっ♡
くぽっ♡
ううっ…
うっ
っ…
じゅるっ
じゅぽっ
ぢゅぽっ
びちゃっ
いかがですか？
久しぶりの
陰茎の感覚は


いかがですか？
私の中の心地は
んっ
お気に召したら
嬉しいのです
けれど…♡
あんっ
んふ…
物足りなさげ
ですわね
騎士様が欲して
おられるのは
どちらかしら♡
なんて…
分かって
おりますわ


…みよ
神よ…
うっ
ゼクッ
我が声
っを
あ…っ
聞きたまえ…
はあっ…この、
あ、ち、小さ、き
あ、あっ、し、もべのっ
祈りっ
を……
ガク
ガク
ズブッ
ズッ
あら騎士様
腰を振りながら
祈りを捧げて
おられますの？
半ば無意識
なのでしょう
健気なほど
敬虔なお方
ブッブッ
ブッブッ
本当に
愛おしい…
あらっ
ス……
ズグッ
ラッ


騎士様は
新たな身体を
手に入れて
まだ間もない身
これ以上行為を
続けるのは
お身体に
障りますわ
は――っ
この愚かな…
を…
ビクッ
お許し…
ビクンッ
ビクッ
ビュッ
ボタ
ボタ
一旦ごゆっくり
お休みなさいませ
ああ…
そうか

ようやく
眠れるのか

続